

## 国際がん研究機構における化学物質の評価の最新情報

食品安全委員会は平成22年3月23日(火)、東京において、  
発がん物質のリスク評価の国際的な現状や最新情報に関するセミナーを開催しました。

議事録等 [http://www.fsc.go.jp/koukan/risk-tokyo\\_220323/risk-tokyo\\_220323.html](http://www.fsc.go.jp/koukan/risk-tokyo_220323/risk-tokyo_220323.html)

セミナーではまず、食品安全委員会の廣瀬雅雄委員が食品中の発がん物質のリスクについて講演しました。ここでは特に、農薬や添加物よりも普通の食べ物の中の発がん物質の方がリスクが高いこと、また、遺伝子(DNAや染色体)を損傷する遺伝毒性発がん物質のリスク評価や摂取量を少なくすることが重要であることなどが述べられました。

次に、世界保健機関(WHO)によって設立されて45年の歴史を持つ、国際がん研究機構(IARC※)の発がん性評価モノグラフ部門長であるビンセント・ジェームス・コグリアーノ博士の講演が行われました。IARCはがん研究における国際協力を推進する機関で、世界50カ国の研究者ががんに関する情報を世界中で収集し、国際的に協調して推進すべき研

究テーマを提案しています。これにより発がん物質やがんの原因を特定してまとめ、WHOの“発がん物質の事典”とも言われる「IARCモノグラフ」を作成。このモノグラフは、それぞれの国や国際的な保健機関が、人が発がん物質にさらされるリスクを最小化することに役立っているということです。

博士からは、こうしたIARCの組織や役割の概要、「IARCモノグラフ」の内容、IARCにおける発がん性評価の内容、方法、いくつかの化学物質についての発がん性評価のケーススタディ、また、食品に関連するさまざまな物質についてのIARCによる発がんリスクの分類の現状や、今後の発がん性評価に関する予定・方向性について説明がありました。

講演終了後には廣瀬委員、コグリアー

ノ博士と会場参加者の質疑応答が行われ、化学物質の発がん性を評価するための動物試験や発がんのメカニズム研究についてなど、活発な質疑や意見が交わられました。

※国際がん研究機構(IARC:International Agency for Research on Cancer) WHOの一機関として設立。世界の発がん状況の監視、発がんの原因特定、発がん物質のメカニズムの解明、発がん制御の科学的戦略の確立を目的に、化学物質やウイルスなどの発がん性の評価、公表を実施。所在地はリヨン(フランス)。

《講演者プロフィール》

Dr. Vincent James Coglianor  
(ビンセント・ジェームス・コグリアーノ博士)  
WHO国際がん研究機構(IARC) 発がん性評価モノグラフ部門長。  
1982年コーネル大学(アメリカ)にて博士号取得の後、IBM勤務を経て、米国環境保護庁にて定量的リスクアセスメントに関する業務に従事。2003年から現職。



## 食品分野におけるナノテクノロジー - 欧州の動き -

食品安全委員会では、6月9日(水)に欧州委員会健康・消費者保護総局で新食品等の欧州連合(EU)内での規制を担当しているアゼベド博士を招いて食品分野におけるナノテクノロジーに関するセミナーを開催しました。

議事録等 <http://www.fsc.go.jp/fsciis/meetingMaterial/show/kai20100609ik1>

セミナーは、当委員会の会議室で開催し、食品関連の事業者、研究者を中心に報道関係者も含め約100名の方にご参加いただきました。アゼベド博士は、EUの新食品、添加物、食品接触材料の規制におけるナノテクノロジーの取扱いや欧州食品安全機関(EFSA)におけるリスク評価手法の検討状況などについて講演されました。

この中で、現在、EUのリスク評価機関であるEFSAの評価対象となっているナノ形状の物質は、食品接触材料としての二酸化ケイ素とカーボンブラック(承認済)、チタン(未承認)であり、ナノ食品は新食品として個別の承認を体系的に行って

いく必要があるが、現在の新食品の定義では対応が困難であるとの見解が示されました。EUとしては、ナノ物質の定義を検討中であり、「縦、横、高さのうちの少なくとも一つのサイズが100nm(※)以下の物質、もしくは粒径は100nmを超えているが、ナノスケール化により特徴的な性質が付加された構造、凝集体などを含む物質」とする案を提案していることなどが紹介されました。

また、EFSAの「ナノ食品のリスク評価についても、従来の物質に適用されている毒性試験から始めるのが適しているが、毒性試験の方法論は修正が必要かもしれない」という見解も紹介されました。

質疑応答では、EU以外の諸外国におけるナノテクノロジー規制の状況、既に各国で流通しているナノ物質を含有したサプリメントや新しい製造方法によるナノ食品の安全性の考え方などについて質問や意見が交わられました。本セミナーの詳細については、食品安全委員会ホームページをご覧ください。

※nm(ナノメートル)とは  
10億分の1メートル

《講演者プロフィール》

Dr. Rui Cavaleiro Azevedo  
(ルイ・カバレイロ・アゼベド博士)  
欧州委員会(EC) 健康・消費者保護総局 フードチェーン安全局“技術革新と持続可能性”ユニット(E6ユニット)次長。ポルトガル農業省/計画局、欧州委員会/農業総局、欧州委員会/健康・消費者保護総局各局等での勤務を経て2006年より現職。

